

横浜市高速鉄道3号線延伸に関するルートの方針についての意見募集の結果及び川崎市の基本的な考え方(2019年12月2日付)

川崎市側の有力ルート案(東側ルート)の考え方についての意見募集は、令和元年9月17日から10月16日まで行われ、意見提出数は104通、意見件数の261件でした。意見・要望の趣旨を踏まえ、精査を行い、新たに川崎市の考え方を補足して説明するとして2019年12月2日付で市のホームページに掲載されています。<資料は「横浜市高速鉄道3号線(ブルーライン)の延伸」で検索>

(1) 地域交通の視点に関すること

意見の要旨:「将来のバス路線で評価すべきではないか」「中央ルートのバス本数は、近隣バス停を含め考慮すべきではないか」

この結果公表に先立ち、川崎市の基本的な考え方が11月21日(木)に開催されたまちづくり委員会において説明がなされました。これまで再三にわたり私が指摘してきました担当職員のバス停留所見落としによる中央ルートのバス便の間違いは3方面/100本から7方面/400本へと正確なデータへと訂正されました。

しかしながらこの変更に対して「多くの人利用しやすいアクセス性を考慮した主要な道路からのバス停だけを評価の対象にする」。これまで都市計画道路尻手黒川線にある王禅寺公園北バス停だけを評価にカウントしてそこからほんの数分も離れていない菅早野線にある王禅寺公園バス停を評価しなかったのは「ご意見の菅早野線上のバス停留所については良好な沿線道を多くの人々が往來することを想定した場合のアクセス性が懸念されることから、含めていない」という理解に苦しむ説明です。

という理解に苦しむ説明です。

想定される3ルートにおける中間駅にも、利用者は主要道路だけを使って集まるわけではありませんし、この文章からは意味が伝わりません。ましてや新設する駅利用者を変差する1方向をカウントして、もう1方は数えないなど著しく公正さに欠けた考え方です。市民の中には「市が印象操作した、公正さに欠ける」との意見も多く聞かれるのです。修正された資料では、中央ルートの中間駅(王禅寺公園付近)へアクセスできる人口は約5万人から約12万人。西側ルートの10万人を超えます。市が有力とする東側ルートは18万人ですが、電車を使えば目的地に早く到達できる小田急線が利用できる柿生駅、生田駅や、地下鉄でルートが被るあざみ野駅、たまプラーザ駅への路線も含まれており、地域住民の感覚では違和感を覚えるものです。

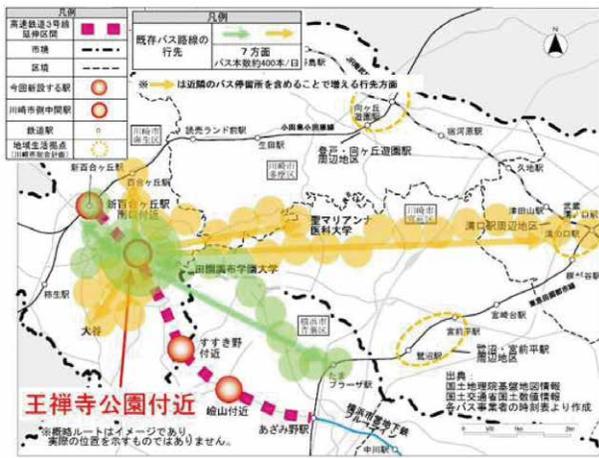


バス利用者はあくまでも想定される新設駅を中心にして影響する半径で考えるのが当然です。今後、この嘘の上塗りのような文章も直されていかなければなりません。その後の市との協議で誰もが理解できる意味に改めることは確認できました。

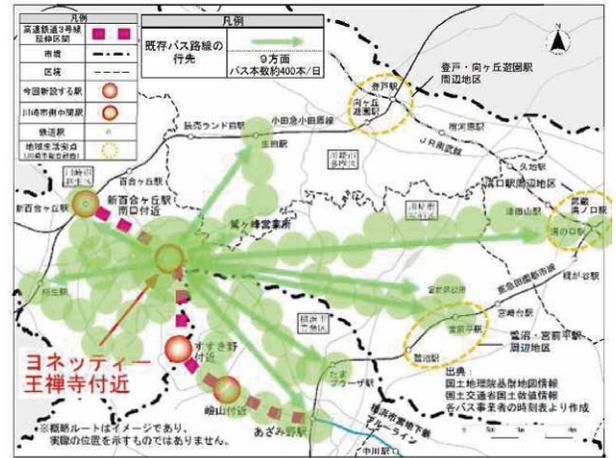
バス利用者はあくまでも想定される新設駅を中心にして影響する半径で考えるのが当然です。今後、この嘘の上塗りのような文章も直されていかなければなりません。その後の市との協議で誰もが理解できる意味に改めることは確認できました。



<西側ルート> (白山付近)



<中央ルート> (王禅寺公園付近)



<東側ルート> (ヨネッティ-王禅寺付近)

☆バス便数と方向が正確に反映されました。
更にバス利用者の動向は想定される新設駅を中心にして主要道だけでなく、影響する地域ごとに円で考えられていることが明らかに読み取れます

郵便はがき
料金受取人払
麻生局承認
777
差出有効期間 2021年1月15日まで
あまがさ裕治 事務所行
あなたのご意見をお寄せください

(2) まちづくりの視点に関すること

意見の要旨:「中間駅における将来のまちづくりを示し、判断すべきではないか」「利用者が多く見込まれる中間駅のルートとすべきではないか」

川崎市の見解は、(東側ルートは)「より広い地域の人利用できる環境となることから、整備効果が高いことを改めて確認した」「ヨネッティ-王禅寺付近においては、現行の都市計画上の制約は少なく、公共用地等の活用による駅前広場等の基盤整備の充実が期待できる」というものです。

(3) その他評価全般に関すること

意見の要旨:「用地取得が容易なルートとすべき」

川崎市の見解:「3案いずれのルートにおいても、民有地を通る可能性はあり、その場合は権利設定に御理解いただきながら事業を進めていくこととなる」「ルートの選定においては用地取得の容易性を評価項目としない」

このことについては、1面で書いた通りです。

「中間駅周辺のまちづくりは、駅位置を決めてから考える」

「用地取得が容易かどうかは、評価しない」

これでいいわけはありません

市民の意見を聞いた結果は、川崎市は「東側ルートを有力候補とする」というものです。「最終的なルート選定に向け、引き続き、公正かつ公平な観点から精査を行い、今年度内を目途に、横浜市と調整を進めながら、総合的に判断し選定していく。交通政策審議会答申の目標年次である令和12年の開業目標に向けて、横浜市と連携・協力して、取組を進めていく」とまとめています。

改めて、延伸区間6キロを早期実現するための最重要課題は、ルート選定の大前提として現地をよく調査のうえ民地の下を極力避ける視点を持つように改めるべきです。市は答弁にあったように、見解を改めて公表しなければなりません。

お名前 住所・電話
ふりがな 川崎市
TEL ()